

2014年度の主な事業報告書 (2014年4月1日～2015年3月31日)

■ 事業実施の概要について

箕面の山麓保全を推進する中間支援組織であるNPO法人として、機能強化につとめ、中核事業である「山林所有者との関わり強化」では、新たに山林所有者の「なやみ相談会」を開始した他、「資金の循環の仕組みづくり」では、「山麓ファンド」募金額が初めて実質100万円を超える成果をあげました。「対話と協働のネットワーク構築」では、国有林内で国・府・市などの行政との「協働」の取り組みで「シカによる食害」防止に注力しました。「情報の共有化とPR・広報の強化」では、ホームページ(山なみネット)で活発に情報発信した他、「人材・組織の育成」では、「みのお森の学校」を拡充し「人と自然の入門講座」としてスタートしました。又、「ナラ枯れ被害の防止」にも精力的に取り組みました。

「ファンド助成」事業では、箕面滝道(大阪観光所有地内)のハード整備の完了後、「森のふれあい広場」での自然情報や観光情報の発信など、箕面の魅力作りのソフト面の充実にも着手しました。

あわせて、受託事業である箕面ビジターセンターの自然解説業務では、自然解説員の配置や自然観察会の実施、自然情報誌の発行や展示室の企画などを着実にを行いました。



みのお森の学校(実習)



山林整備サポート(倒木処理)



森のふれあい広場(箕面滝道)

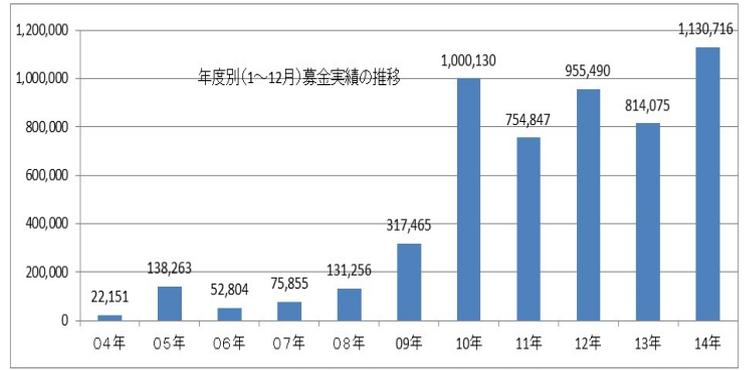
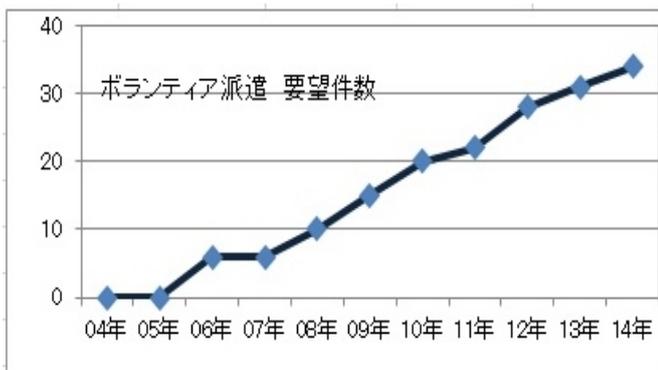
■ 中核となる事業について

1. 山林所有者との関わりについて

公益信託「みのお山麓保全ファンド」の助成PRや個別相談などを行い、山林整備サポート(ボランティア派遣)件数は、34件となり前年より3件増えました。

2. 資金の循環の仕組みづくりについて

2014年(14年1月～14年12月)の募金額は1,130千円、「箕面の森の守りびと」(山麓ファンドサポート個人会員)は172名となり、41名増えました。



* 10年度は個人の大口募金50万円を含む

3. 対話と協働のネットワーク構築について

「明治の森箕面自然休養林」(国有林)では、市民団体が中心となり、国、府、箕面市などの行政委員と対話と協働を前提として、年7回の例会を開催した他、「シカによる食害防止」など多彩な活動を行いました。

■ 外部環境の変化について

1. 「公益信託」を活用した山麓保全活動の継続

04年度に箕面市が2億円を信託して始まった「山麓保全ファンド」の残高は、14年度末には約21百万円となり、15年度末には枯渇するために財源問題が課題となっています。

草の根の募金活動に加えて、山麓保全活動の継続のためには、箕面市を中心とした財源面での課題解決の対応が求められています。

2. 集中豪雨の多発の恐れ

大阪府によると、集中豪雨(1時間降水量50mm以上)の発生頻度は、昭和63年以降は、年6.5回と飛躍的(2.4倍)に増加しており、土砂災害などの自然災害の発生リスクが増大しています。市民が出来ることは少ないと思いますが、ハイキング道などで土砂災害が発生した際に、行政(国・府・市)への通報や市民への情報発信など、さまざまな取り組みの仕組み作りが求められています。

3. 「シカの食害」や「ナラ枯れ」被害の低減などで、求められる「協働」の取り組み

増えすぎたニホンジカによる森林生態系に与える負の影響や農林業被害が多く発生していますが市民による「食害対策ネット設置」や「モニタリング調査」「広報や啓発」など、総合的な対策を実施する事により、箕面国有林内で、14年度から本格的な「個体数管理」を始める事ができました。あわせて、「ナラ枯れ」被害も徐々に増えていますが、行政(国・府・市)と連携して危険木の対策を行うなど、森林の持つ公益的で多様な機能を出来るだけ維持する事が求められています。



ハイキング道の土砂災害



増えすぎたニホンジカ



ナラ枯れ枯死木

■ 個別の事業の実施状況

1. 広報事業(情報の共有化とPR・広報強化の事業)

(インターネットを利用した広報)

1-1 ホームページ(山なみネット)による広報強化、及び情報公開

- ・精力的に「ブログ」に記事掲載(年間約200回)やトピックスの更新を行った他、トピックスやイベントカレンダーを更新するなど、タイムリーな情報発信につとめました。
- ・季節に応じた情報として「箕面ホタル情報」のバナーを新たに設けて、箕面ホタルを守る会からの情報などを発信しました。
- ・山麓保全ファンドの助成結果やNPO山麓委員会の情報などの情報公開に努めた他、箕面ビジターセンターのイベント情報や森の安心・安全情報などを発信しました。

(紙媒体などによる広報)

1-2 全世帯向け広報

- ・従来、年1回であった箕面市全世帯向け広報紙「もみじだより」の広告掲載を、年2回(8・2月)に拡充し、「山麓ファンド」の山林所有者や市民団体への活動助成、ファンドへの募金の他、森の学校など、人材育成事業についても広報しました。

1-3 ニュースレターの発行

- ・広く山麓保全の情報発信を図るために、ニュースレター「みのお山なみ通信」を年4回(4・7・10・1月)発行しました。
- ・箕面ビジターセンターだよりも、同様に年4回発行し、その他のイベントチラシなどとあわせてNPO山麓委員会会員や「箕面の森の守りびと」山麓ファンドサポート会員などに発送しました。

(イベントを通じた広報)

1-4 イベントの開催・出展

- ・山とみどりの市民イベント(10月箕面)を開催するとともに、「箕面の森の音楽会」(2回)や箕面駅前ステージでの「自然工作教室」(3回)、「森のふれあい広場」(2回)などの機会をとりえて、山麓保全活動の紹介や山麓ファンドへの募金活動を行いました。



ホームページ/山なみネット



もみじだより広報



山なみ通信



阪急箕面駅前イベント

2. 山麓保全交流事業(情報の共有化と意見交換による活動の場づくり事業)

2-1 明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の活動

- ・同協議会(国、府、市、森林総研等の行政委員と11の市民団体に構成)では、NPO山麓委員会が事務局を担い、年7回の例会を行った他、年6回の分科会(連絡会)を行いました。
- ・対話と協働の仕組みの中で、行政、市民団体の意見交換や情報の共有化を図りながら、清水谷防鹿ネットの補修や植生調査、「箕面の森の案内板」の補修、「ナラ枯れ」被害防止対策の他、定点カメラの設置などによる「シカによる食害」防止など多彩な活動を行いました。

3. 山林所有者関連事業(山林所有者との関わり強化事業)

3-1 山林所有者への対応

- ・山林所有者による山の手入れの活動に対する公益信託「みのお山麓保全ファンド」による助成は2014年度(8・2月期)、77件6,934,800円でした。 * 2014年8月10件、2015年2月67件
- ・「自然緑地」の新規同意は、2015年2月期に2件(9,667㎡)となり着実に増えています。

3-2 山林整備サポーターの派遣

- ・高齢化が進む山林所有者に代わって山の手入れを行う「ボランティア派遣」は、34件(前年より3件増)の所有者から要請があり、のべ309人(前年より11人増)のボランティアが、山の手入れの活動を行いました。(11/13から3/20の期間)
- ・2015年2月期には、32件(新規2件)の「ボランティア派遣」の要請がありました。

3-3 山林所有者の”悩み相談会”の実施

- ・2月6日(金)に、山林所有者の”悩み相談会”を行い、3件の相談を受けました。
- ・2件については、山林の売却又は寄付要望であり、事前に寄付を受ける場合の対応マニュアルの整備を行いました。その他についてもマニュアルの整備を行いました。
- ・1件については、山麓ファンドによる助成の仕組みの相談であり、結果、自然緑地及び山林整備ボランティア派遣を受けてのファンド助成につなげる事が出来ました。
- ・山林所有者の相談の受け皿として、今後も、きめ細かく対応していく必要があります。



4. 「山麓ファンド」への募金活動(人と資金の循環の仕組みづくり事業)

- ・2014年(14年1月~12月)の募金額は、1,130,716円(前年より316,641円増)山林所有者のなやみ相談会(箕面市ふるさと寄附金215,000円を含む)となり、実質的に初めて100万円を超えました。 * 2010年の募金額1,000,130円(個人の大口募金50万円を含む)
- ・「箕面の森の守りびと」(山麓ファンドサポート会員)は172名(前年より41名増)となりました。「箕面の森の守りびと」に、年4回「山なみ通信」などの情報誌を送りました。
- ・「阪急阪神未来のゆめ・まちプロジェクト」から、箕面の紅葉の保全と再生を目的に募金をいただいた他、募金付き自動販売機、募金箱、市民イベントなどで募金をいただきました。 * 阪急箕面駅「もみじの足湯」募金200,314円(同プロジェクト及び阪急電鉄)
- ・箕面滝道にある大阪観光株の「ゆずるの足湯」に、募金箱を設置しました。



リーフレットの設置



リーフレット/箕面の森の守りびとになりませんか!



ゆずるの足湯募金

5. 人材&活動組織の育成事業

5-1 「みのお森の学校」の開催による人材育成

- ・従来、里山管理の入門講座として行って来た「森の学校」(年5回/受講料5千円)を、「人と自然の入門講座」(年10回/受講料1万円)として大幅に拡充し、刷新しました。実行委員会方式で運営し、20人が受講しています。

5-2 「山麓学習(箕面の自然学習)」を担える人材の育成

- ・山麓学習部会の活動として、小学校の授業のお手伝いをするスクールインタープリター養成入門講座(1日間の講義・実習)を8月に行い、6人が参加・修了しました。
- ・中学校で3回、学童保育で1回(85名が参加)、延べ16名のボランティアが活動を行いました。

5-3 新たな市民ボランティア組織の立ち上げ支援

・新規の活動助成は、みのお森のふれあい広場運営委員会の1件でした。(2015年2月期助成)

6. 企画及び調査・研究事業

6-1 「ナラ枯れ」防止対策

・「ナラ枯れ」被害防止P/Tとして、行政(箕面市・国・府など)との情報の共有化と協働の取り組みにより、市民の役割としての早期発見や応急的な処置を中心に精力的な活動を行い、「ナラ枯れ」被害防止の一定の成果が得られました。* 2014年4月～2015年3月期間で延べ252人/日の活動



箕面公園管理事務所と協働



粘着シートを取り付け
(粘着面を内向け)



5mm角の防風ネットを取り付け
(粘着面を外向け)

6-2 「箕面の森林セラピー」の研究と人材育成

・森林の機能を活用した「こころとからだの健康増進」を目的とした「森林セラピー」事業の研究として毎月、研究会や研修会を行った他、マンスリーセラピーとして11日実施し、計50人のお客様に参加していただきました。
・セラピーアシスター養成については公募をしませんでしたが、要望があり講座(5日間の講義・実習と試験)を行い、2名が修了しました。



森林散策



森林安息



6-3 生物多様性の確保に向けて

・明治の森箕面自然休養林管理運営協議会と連携して、「生物多様性の保全」に向けた活動として「人と自然の共生のための研究フォーラム」を行いました。(10月)
・年10回「生きもの会議」を開き、ホテルの観察会や保全のための啓蒙や「たんぼぼ調査」を行った他、生物多様性の保全のために、生き物の基礎的なデータ収集づくりに着手しました。



研究フォーラム

7. 「山麓ファンド」助成事務サポート事業

7-1 助成申請の受付や活動促進など

・「山麓ファンド」の助成申請の広報、申請書の配布と受付、申請の相談などの山麓ファンド助成サポート事務を行いました。

山林所有者への活動助成: 14年度(2014年8月・2015年2月)77件、6,934,800円

※「自然緑地」の新規同意・・・2件、9,667㎡

市民団体への活動助成: 14年度(2014年8月・2015年2月)16件、2,127,300円

・施設整備などハード事業を対象とした「特別助成」の活動を促進し、2014年8月期に大阪観光(株)による「箕面滝道ふれあい広場創造事業」の申請があり、助成が採用されました。大阪観光(株)の事業は総事業費1,460万円(バリアフリー対応後)の内、1,000万円の助成が採用されました(助成率68%)。2014年度の冬季に施工され、工事完了を確認しました。

7-2 助成事業の支援や進捗確認など

・「山麓ファンド」の助成を受けた団体や山林所有者などの活動支援や進捗確認などを行いました。

8. 箕面ビジターセンター自然解説事業

8-1 自然解説活動

・2014年度は、土日・祝日を中心に8月・11月の平日を含めて、年171人日の自然解説員を派遣し、ビジターの安心・安全のためのハイキングコースの案内や、植物や野鳥など、季節の自然情報の発信を行いました。また、年32回の自然観察会の開催、年4回の自然情報誌「箕面ビジターセンターだより」やキノコの特集号の増刷(各2000部)を行いました。あわせて、箕面ビジターセンターの展示室内で季節に応じた各種の「企画展示」を行いました。

8-2 企画活動、PR・広報活動

・年9回の「友の会」(企画会議)の開催により、意思決定と計画実行の迅速化を図り、ビジターに喜んでいただける自然解説活動につとめました。

8-3 PR・広報活動

・ホームページ「山なみネット」箕面ビジターセンターのイベント情報やブログ掲載など、情報発信や活動紹介を活発に行いました。



自然工作教室



自然観察ツアー



箕面ビジターセンター



箕面ビジターセンターだより